

原油市場展望

2022年1月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2022年1月6日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>



原油価格見通し：高値圏での推移が持続

◆現状：70ドル台後半へ上昇

2021年12月のWTI原油先物価格は、イラン核合意を巡る協議の難航や、新型コロナのオミクロン株の重症化リスクは低いとの見方から、上旬に70ドル台前半へ上昇。

中旬には、欧米でのオミクロン株の感染者数の急増などを受けて一時60ドル台へ下落したものの、月末にかけて70ドル台後半へ再び上昇。この背景には、①既存のワクチン接種の有効性が確認されたこと、②米原油在庫が減少したこと、③欧州で天然ガス価格が上昇したことが指摘可能。

◆投機筋の買い越し幅の縮小

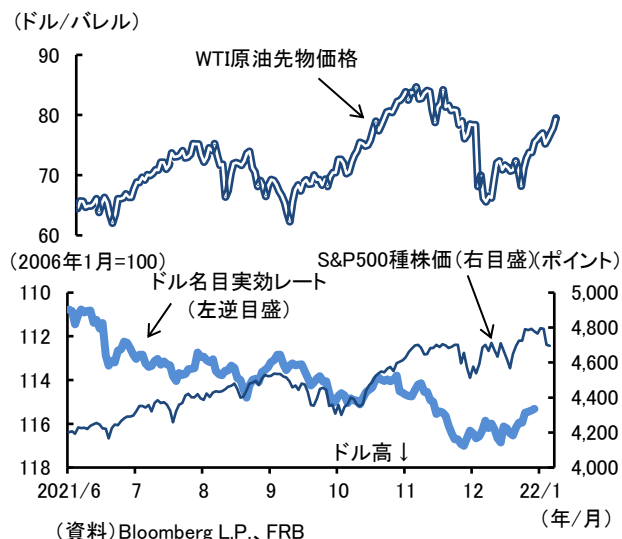
投機筋の原油先物買い越し幅は、12月末にかけてオミクロン株の感染拡大に対する警戒感の緩和に伴い縮小。総建玉は、2016年以來の水準へ減少。

◆見通し：高値圏での推移

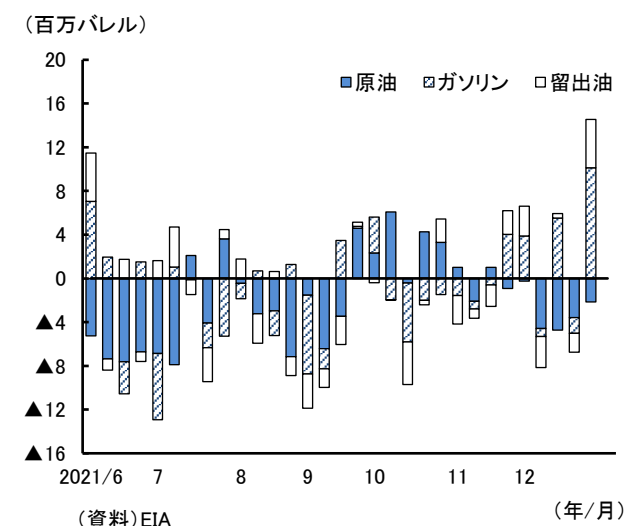
先行きを展望すると、原油価格は70ドル台を中心とする高めの水準が続く見込み。当面はオミクロン株を巡る不透明感は根強いものの、原油供給の拡大が緩やかにとどまる一方、世界的なエネルギー需要が旺盛である結果、需給のひっ迫が意識されやすい展開が続くと予想。

来春以降、OPECプラスや米シェールオイルによる供給が拡大する一方、暖房需要が一巡することから、需給のひっ迫感が和らぎ、原油価格は60ドル台へ向けて徐々に水準を切り下げる見込み。

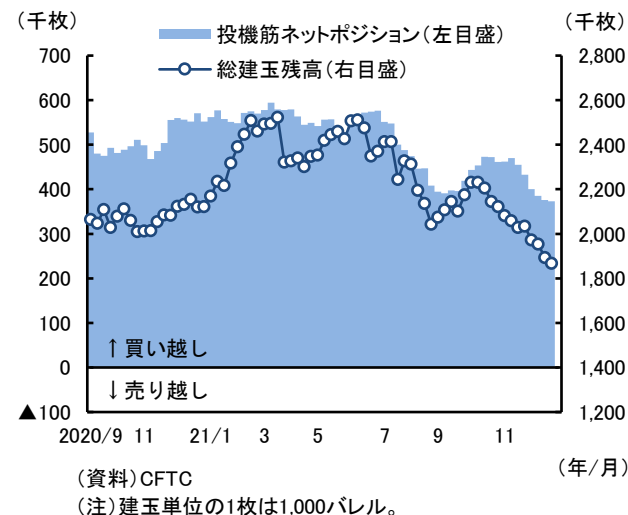
原油価格と株価・為替レート



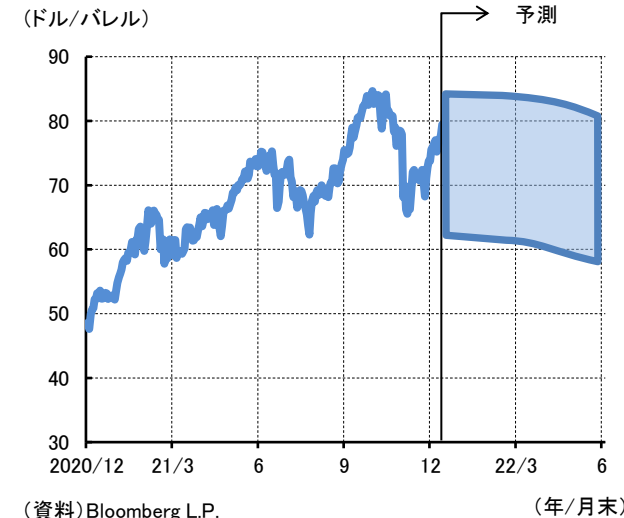
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：OPECプラスは減産幅の縮小を継続へ

◆OPECプラスは減産幅の縮小を決定

OPECプラスは2022年1月4日に開催された会合で、21年12月と同様に日量40万バレルの減産幅の縮小（増産）を決定。この背景には、以下の2点が指摘可能。

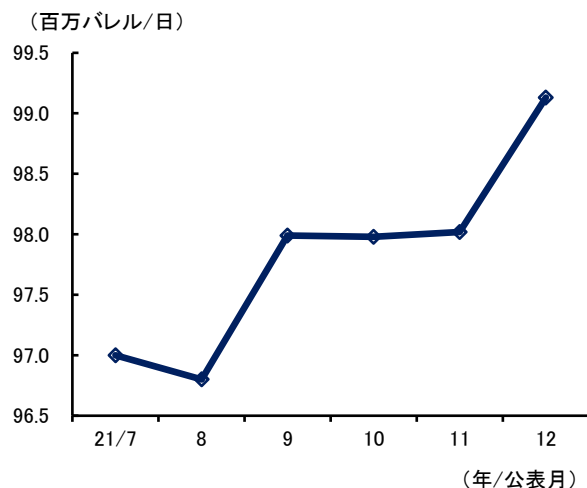
第1に、需要回復への強気な見方。21年12月に公表されたOPEC月報では、21年10～12月期の需要が後ろ倒しされた影響で、22年1～3月期の需要が上方修正。会合でも、オミクロン株の感染を巡る不透明感は根強いものの、経済への悪影響は軽微かつ一時的との認識を表明。

第2に、米国など石油消費国との対立回避。増産停止などの産出量を抑制する措置は、原油価格のさらなる上昇圧力につながる可能性。米国のガソリン価格は依然として高水準で推移しているため、今回の決定は産油国に増産を要請するバイデン米政権への配慮の意味合いも。

◆緩やかな増産を継続へ

先行きについても、需要の大幅な下振れ懸念が台頭しない限り、OPECプラスは減産幅縮小の方針を維持すると予想。OPECプラスが同様のペースで増産を続けるとの前提で、原油需給バランスを試算すると、早晚供給超過に転じる見込み。もっとも、OECD加盟国の原油・石油製品在庫は、20年後半以降減少傾向が続いており、15～19年平均を大幅に下回る水準で推移。OPECプラスが増産を継続しても、価格が急落するリスクは小。

世界の原油需要見通しの変遷



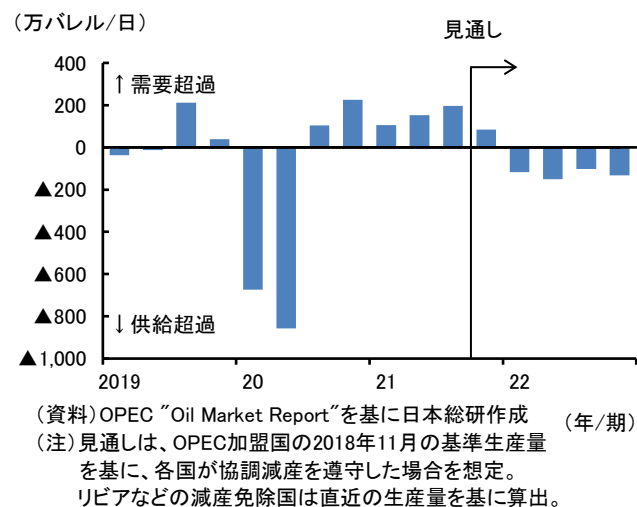
(資料) OPEC

米国のガソリン小売価格



(資料) EIAを基に日本総研作成

世界の原油需給バランス



OECD加盟国の原油・石油製品在庫

